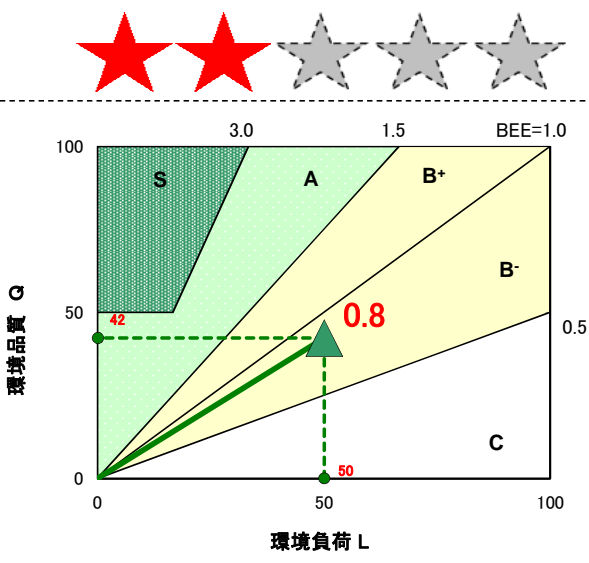


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)新興運送本社物流センター	階数	地上1F		
建設地	熊本県上益城郡嘉島町	構造	S造		
用途地域	都市計画区域内,市街化調整区域,排	平均居住人員	25 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2019年3月6日		
敷地面積	9,269 m ²	作成者			
建築面積	2,161 m ²	確認日	2019年3月7日		
延床面積	2,148 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 0.8

BEE = 0.8

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)


#DIV/0!

排出率

#DIV/0!

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

42

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	🍗🍗🍗🍗🍗
80点以上100点未満	🍗🍗🍗🍗
60点以上80点未満	🍗🍗🍗
40点以上60点未満	🍗🍗
40点未満	🍗

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新興運送本社物流センター	階数	地上1F
建設地	熊本県上益城郡嘉島町	構造	S造
用途地域	都市計画区域内,市街化調整区域,第6地域	平均居住人員	25人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2019年3月6日
敷地面積	9,269 m ²	作成者	
建築面積	2,161 m ²	確認日	2019年3月7日
延床面積	2,148 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.2

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8

Qのスコア = 2.6

LRのスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 15.0

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 46.2

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 60.0

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 73.5

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周辺環境、周辺建物との調和を図る為に、近隣建物と同様の色調の建物とした。

Q1 室内環境

・ 建築材料はF☆☆☆☆建材を積極的に使用し化学汚染物質による空気質汚染を回避した。

Q2 サービス性能

・ 室内の広さを十分にとることで、機能性・使いやすさに配慮した。
・ 執務室の天井高を十分にとることで、従業員の心理性・快適性に配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

・ 敷地境界に緑地帯を設けることで、建物内外を連関させる豊かな中間領域の形成に努めた。

LR1 エネルギー

・ 高効率の照明、空調機器を採用し、省エネルギーに努めた。

LR2 資源・マテリアル

・ ODPおよびGWPの観点から、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。

LR3 敷地外環境

・ 建物利用者が利用する自動車等を敷地外に路上駐車させないよう、適切な駐車スペースを確保した。

その他

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.6	
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル				-	-	-	-		
1.2 遮音				-	-	-	-		
1 開口部遮音性能				-	-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音		【事務所】天井に吸音材、床にタイルカーペット使用		-	-	-	-		
2 温熱環境									
2.1 室温制御				-	-	-	-		
1 室温				-	-	-	-		
2 外皮性能				-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御		加湿機能 冬期:50%、夏期:50%		-	-	-	-		
2.3 空調方式				-	-	-	-		
3 光・視環境									
3.1 昼光利用				-	-	-	-		
1 昼光率		【事務室】7.6%		-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				-	-	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				-	-	-	-		
4 空気質環境									
4.1 発生源対策				-	-	-	-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用		-	-	-	-		
4.2 換気				-	-	-	-		
1 換気量				-	-	-	-		
2 自然換気性能		【事務所】0.054>0.033(1/30)		-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
Q2 サービス性能					0.43			3.2	
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-		
1 広さ・収納性		【事務所】執務スペース:14.77㎡/人以上		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-		
1 広さ感・景観		【事務所】天井高:2.7m+窓		-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		【事務所】リフレッシュスペース≥執務スペースの1%		-	-	-	-		
3 内装計画				-	-	-	-		
1.3 維持管理				-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.50			3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		【事務所】サイディング(7~8年)、【工場】ガルバリウム鋼板(25年)		4.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				1.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				2.8	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				2.0	0.20				

3 対応性・更新性			3.4	0.50		-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	-	
1 階高のゆとり		【事務所】階高:3.365m、【工場】階高:8.84m	5.0	0.60		-	-	
2 空間の形状・自由さ		【事務所】比率:0.271	4.0	0.40		-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	-	
3 電気配線の更新性		構造部材、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕可能(金属管等)	5.0	0.10		-	-	
4 通信配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕可能(金属管等)	5.0	0.10		-	-	
5 設備機器の更新性			1.0	0.20		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40		-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI _m]=0.55		-		-	-	
2 自然エネルギー利用			-	-		-	-	
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m]= -	-	-		-	-	
4 効率的運用			3.0	1.00		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-		-	-	
4.1 モニタリング				-		-	-	
4.2 運用管理体制				-		-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20		-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60		-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・躯体と仕上材が容易に分別可能(S造) ・内装材と設備が錯綜せず、容易に分別可能(金属管・CD管等)	5.0	0.22		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20		-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70		-	-	
1 消火剤			-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材の使用なし(グラスウール)	5.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:89%	-	-		-	-	
2 地域環境への配慮			2.9	0.50		-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		自転車・バイク置場・駐車スペース・荷捌き車両の駐車施設確保	4.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.50		-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	-	
1 騒音			3.0	1.00		-	-	
2 振動			-	-		-	-	
3 悪臭			-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	-	

建物名称 (仮称)新興運送本社物流センター

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		42
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				15	0.40	6.00
Q1-2.1.2	外皮性能	0.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	0.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	0.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				46.2	0.20	9.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				73.5	0.20	14.70
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数